

第1回湖南省図書館基本計画策定委員会 議事録

■開催日時 令和8年7月2日（木） 午後4時00分～6時00分

■開催場所 湖南省立甲西図書館 2階 視聴覚室

■出席者 図書館基本計画策定委員 10人

事務局 7人

■傍聴人 14人

1. 開 会

[教育長あいさつ]

[自己紹介]

[会長・副会長選出]

[会長・副会長あいさつ]

2. 議 事

【会長】

それでは事務局から本日の議案の1、「図書館基本計画策定の目的と背景」についてご説明をお願いいたします。

【事務局】

資料2により説明

【会長】

ご説明いただいた内容について、皆様からのご意見を伺うタイミングですが、先ほどこの計画の策定に際して、9ページのグランドビジョン「第1章 図書館策定の基本方針案」から12ページまでの、あるいはそれ以降の具体的な施策の構成について、例えば10ページ、11ページに関して、もう少し詳しい説明を聞きたいというご要望があれば追加説明をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。もし、先に意見があれば進めますが、追加の説明についてはいかがでしょうか。

10 ページ、11 ページあたりは「案としてお示ししました」というご説明だけでしたので、どのような案としてこの策定委員会にお諮りになったのか、そのあたりをご説明いただけますでしょうか。

【事務局】

資料 2 により説明

【会長】

それではご説明を受けて委員の皆さんからご意見をお聞きしたいと思いますのですが、いかがでしょうか？

【委員】

資料 8 ページの「策定にあたって」の第 4 段落に「公共施設の再編」という項目があり、「市としては図書館を集約する方向で考えている」とあります。これは過去の企画の経緯を示していただいているのだと思いますが、今回の図書館基本計画策定をまとめている段階で、グランドビジョンなどを拝見すると、非常に意気込みのある、実現したいという明確な案を考えていただいていると感じます。しかしその反面、甲西図書館にこれだけの内容を盛り込もうとすると、スペース的な増築などが必要になるかと思います。

今回の基本計画の策定において、先ほど述べられた市の「図書館を集約」という言葉は、「2 館を 1 館に」という意味だと認識していますが、これらのグランドビジョンを実行するには、ハードウェア的にかなり困難を伴うのではないのでしょうか。皆で議論しながらまとめる中で、いわゆる「同じ施設が 2 つあるなら 1 つに」というのは理解できます。ただ、今回のように、他市に負けられないような非常に意欲的な計画、特に「将来の若い世代の方にもっと利用してもらえる」というキーワードを考えると、全く同じものが 2 つあれば 1 つにするのはやむを得ませんが、このような意気込みのある計画の場合、単に「2 つ目」をなくすというよりも、「同じものは 2 つありません」と。これまでのものに加えて補完する、あるいは情報の発信や若い世代への働きかけといった意欲的な内容は、甲西のスペースだけでは難しいのではないのでしょうか。そのため、同じものを 2 つ持つのではなく、石部をそのまま残すという意味ではなく、このグランドデザインを充実させて実現するためには、サブ的なものがあっても良いのではないかというのが、私の意見というよりも、我々が様々な意見集約を行う中で、住民の方々から伺った際に、「とにかく、我々高齢者よりも若い人に使ってほしい。特に若い世代の読書率が、大人でさえも本に親しむ傾向が下がっている中で」という声が多く聞かれました。このような意気込みのある計画であれば、市としては集約という言葉があるものの、議論の中では、抜本的な基本計画であるならば、その枠を外して議論しても良いのではないかというのが、私の個人的な意見です。皆様と意見を交わしながら進めていきたい

と考えております。

【会長】

今のご提案について、委員の皆様からお聞きしたいのですが、事務局から何かご説明があればと思いますが、先に事務局から何かありますか。

【事務局】

今、「同じものが2つなくても、補完するものがあれば」というご意見いただきました。まさに市の方でも、同じものを2つ維持していくのは、やはり将来的に難しいというところがベースにあり、施設の集約化という話に進んでいるという経緯もございますので、今いただいたご意見というのは本当に一つの大きな現状認識であるのかなとは思います。

その上で、この甲西図書館を現在のスペースで、場所が変わらない中で、これをどのようにうまく活用できるかということであったり、今、移動図書館もございますので、移動図書館で補完できるものもあると思います。そういったところも含めて、サービスはもう少し充実できるように、また低下することがないようにできればと思っております。

【会長】

先ほどご説明いただいた基本計画策定の基本方針の11ページにも、三つの重点的目標の中に「資料」という項目で「各地域における読書環境を考えていく」とあります。また、「施設」では「情報を身近に感じられる仕組みを作る」とあり、そういったことが明確に掲げられています。この点に鑑みると、今のご指摘は、こういった方向性にも非常に合致するものだと考えます。

今の関連で、委員の皆様から何か追加のご意見はございますでしょうか。

【委員】

今のお話もごもっともだなと思いながら聞かせていただいていたいました。集約という言葉と、今、確認のありましたこの重点目標の「市民が情報を身近に感じる」とことはどういうことなのか。そして、「各地域における」というこの各地域の捉え方もあると思うんですね。

例えば子どもたちの現状を見てみますと、自分たちの学校区以外は子どもだけでは行ってはいけないというルールがあります。石部には石部図書館があるので子どもたちは自分たちで図書館に行けるというすごく恵まれた環境にあるんですけれども、そういった子どもたちが本を読みたいと思ったときに、土曜日や日曜日も含め自ら行きたいなと思ったときに行ける場所というものをどのように確保していけるのか。子どもの関わりで言いますと、そういったことも具体的にどうすればいいのかなということで、今のマツゾウくんの話もありましたし、マツゾウくんの移動先というのが

資料の中にありますが、行き先は本当にこれでいいのかなということもあるかと思います。

今後話が出てくると思うのですが、アウトリーチの仕方であったり、もちろん電子書籍の活用もあると思います。石部の子どもたちを浮かべながら言っていますが、この石部の子どもたちが甲西図書館まで行けないなと思ったときに、どのようにしてあげたらいいのかなといったことを考えています。

【委員】

先ほどの意見には、私も賛同するところがあります。本来の図書館の機能、つまり「知りたい、調べたい」を保障する役割は基本だと思いますし、資料や情報を欠かすことはできません。これはつまり、生存権の文化的な側面をきちんと保障していくための機関だと思いますし、無料利用の原則は70年以上続いていますからね。

そういう意味で言えば、公共施設の利用者の中でも、図書館は市民の皆さんが非常に多く参加する場所だと思います。だから非常に大事な施設であると思います。

基本計画をずっと見ていますと、「2館を1館にする」という集約については、私には少し馴染まないと感じます。つまり、図書館の機能そのもの、役割そのものが時代とともに変わってきていると思うんですね。

それは一つには社会の様々な変化、もちろんコロナもありましたし、それから子どもたちの居場所という点では、何年か前にいち早く横浜の図書館が、学校に行けない子どもたちの居場所としての図書館というのを受け止めて、「朝からずっといいですよ」という、そういう子どもたちの場所を提供したという話を何かで読んだのですが、その点では甲西図書館でもそういうことがあったと聞いています。

ですから、そういうことも含めて大いに議論をして、先ほど言われましたように、私はここに「一つに集約してできるのか」というのは非常に疑問を感じますし、そういう意味で言うと、全体として図書館を2つ持つ、石部の図書館をあのまま残す、というのもどうかと思います。だから今の新しい機能や要望に応えた形の協議を進めるべきだと考えています。

【会長】

では関連して、あるいは別の観点からでも結構です皆さんの方からいかがでしょうか？ご意見ご質問をお願いいたします。

【委員】

基本計画策定の基本方針が10ページ11ページにあります。図書館機能の集約や配置等については、地域課題をはじめ、様々な背景と課題の分析をした中で最終的に決めていくことであろうと考えます。具体的な設置と運営のことについてもこの会議で検討がなされるのかわからないまま発言をしますけれども、基本計画ですので、まずその基調となる基本方針とそれに基づく重点目標がこれで良いのか、そして具体的な事業や活動としてどのようなことを計画事業とするのかを文字にしていく必要があります。

今ほど小学校の子どもさんのお話がありましたように、それぞれの人にとって図書館はどのような存在か、また湖南市立図書館は市民のみなさんにとってどのような存在でありたいか、図書館はこういう基本的なサービスを提供する場所であってほしいということや、もっと賑わいを創出するためには、さらにこういうことをしていける場所であってほしいという希望や意見・提案がありますね。これからの議論のなかで、公共図書館としてのベーシックな機能・役割と、湖南市として図書館を拠点にして文化をもっと豊かなものにしていくために持たせたい機能・役割という二つことをどのように描いていくのか。また、現在、市内には2館ありますが、2館でよいのか、どうあることが、今と将来の多様な世代、多様な属性をもつ住民の方たちにとって納得できる形なのかということについても意見を出し合えるとよいと思います。そのなかで、私は地域福祉の仕事を通じて、子どもの貧困や孤立の問題と公共図書館との関わり、なかなかつながりがつくりづらい人にとっての居場所や社会参加の場としての公共図書館、妨害行為をする人以外はだれも排除されない場所といった公共図書館の意味みたいなこともお話できたらと思っています。

【会長】

10ページ、11ページで先ほど確認していただいた基本方針や重点目標案ということでお示しいただきました。どちらかというと施策レベルの、抽象的と言いますと語弊があるかもしれませんが、イメージですね。

今おっしゃっていただいた、「これはどういった具体的なイメージとしてあるのか」。

事務局の皆さんの考えもあるでしょうし、むしろ委員の皆さんで計画を作っていくプロセスで、具体的に議論する必要性もあるということで、今ご案内がありました。いかがいたしましょうか。そういったことも含めていくようなフェーズに移るか、あるいはもう少し広く、他の観点も含めて「こういうことをちょっと早い段階で言っておきたい」ということがあるかもしれませんので、そちらの方を皆さんどうぞご自由にご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

少し水を差すようで申し訳ないのですが、今、会長さんは非常に大事な方向を示してくださいま

した。事務局にお尋ねしますが、全5回という、しかも今日はあと30分ほどで終わるというのであれば、今日に基本方針とかを全部決定して、それを踏まえて第2回に行くのか。いや、あっち行ったりこっち行ったりしながら5回までに決めましょうというのか、そのへんのイメージを教えてください。この会の割り振りをどういうふうに考えておられるかによって、意見の言い方が変わってくると思います。

【事務局】

スケジュールとして、会議は5回ということで一旦設定させていただいております。今回このような形で、資料をある程度話し合いをしていただくベースとして、案という形でお示しさせていただいているのですが、今ご意見を伺った時点でも、もう既に「もう少し時間をかけて話し合わない」と着地点が見つからない」というような感触を受けております。そのため、1章、2章、3章と順番に1回ずつまとめていければ良いなという思いはありましたが、正直なところ、それは厳しいだろうと考えております。

【会長】

実は今日の次第に、議案として「3. 今後のスケジュール説明」という項目がありますので、最終的にはその見通しというか、今思っていらっしゃる、質問があった内容について、お聞きしておいた方が、今後の我々の発言や提案といった議論がしやすいと思いますので、そちらの方をご案内いただければよろしいでしょうか。

【事務局】

資料2により説明

【会長】

次第の順番は変わりますが今後のスケジュールのご説明について、皆さんからいかがでしょうか？ご質問やご意見はございますでしょうか？

【委員】

要望です。8月から9月にワークショップと書いてありますが、この辺りで中学生とか高校生とかを対象にしたワークショップも、ぜひ開催していただきたい。次世代という言葉が使われていましたけれども、「大人が決めて次は任せる」ではなく、「僕たちは、私たちはこんな図書館がいいと思う」という、次の世代から出てくるものを吸い上げられる感じにしていきたいと思います。そう考えていくと、基本方針とかは毎回検討しながら、ワークショップとかアンケートとかも踏まえた上で決定するという柔軟性が必要なのかなと思いました。

【委員】

スケジュールとの関係で言いますと、事前の資料で、中学生・高校生のアンケート案を拝見しましたが、これを読ませていただいて、つまりこれは石部と甲西に現状図書館があることを前提にしたアンケートになっていると感じました。

以前ですね、中学生との話し合い、様々なことをパブリックコメントの中で、例えば議員が受けた際、図書館を利用する上で、一つは自習ができないこと、それと図書館までのアクセスが非常に整っていないことが挙げられていました。固有名詞を出しますが、日枝山手台の子どもがどうして甲西図書館に行くのかと。親に送ってもらうことしかできないので、行きたいし、自習もしたい、という声がありました。

そういう点で言いますと、このアンケートをずっと読ませていただいたのですが、図書館への移動支援の手段、いわゆる「行くための手段」というのをきちんと入れていただきたいなと。ですから、先ほども言いましたように、これはもう単に石部だけの問題、甲西の問題ではなく、図書館だけの問題でもなく、その地域のいわゆる現状の施設等の課題も含めて議論していくべきだと私は思っています。

【会長】

この基本計画策定の目的と背景説明、その議論の延長として、どのような手順で進めていくのかというスケジュールについてのご説明と、それに対するご意見をいただいているところであります。

それでですね、先ほどのスケジュールで申しますと、今日の事務局としての考えとしては、計画の位置づけや策定方針、そしてスケジュールという三つの柱がありますので、今日はこういうことがメインになるということになるかと思います。

2回目、8月の素案作りというのは、これまでに甲西図書館の設計等で取り入れてきた市民の声なども参考にしながら素案を作り、これをもとに委員の皆様にご議論いただくという、こういう流れになるということが今分かりました。

そのようなことを踏まえて、ここからは特にこの1回目で我々の、何と言いましょうか、テーマとなっている「本」のを中心としながら、それ以外にも限定はいたしません。こういうことも少し早い時期に提示しておく方が良いのではないかというご意見も含めまして、ここからは自由討議と申しまししょうか、皆様からご意見、ご要望、場合によってはご質問などいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

先ほど中高生のアンケート案のことについて、確かに移動手段を聞きながら進めていくのがすごく大事だと感じました。あともう一つ、私も事前に資料をいただいたときに気になったのは、「利用したことがある」と言った生徒に対しては細かく質問があるのですが、「利用したことがない」「利用しない」生徒は「なぜなのか」というところをもう少し深掘りして、これから次世代の人たちがどうやって図書館を使っていきたいのか、というのを考えていくのが大事なのではないかと私は考えました。

【委員】

今いろんな方から施設のことを話されていますが、やはり図書館っていうのは、どのようなサービスを提供するかということを基本的に考えます。その中で先ほどおっしゃっていましたが、同じものを二つ云々ということではなく、そのような話が出てきたときには、この先どうあるべきかを皆さんと議論しながら進めていった方がいいかなと思います。

【会長】

ありがとうございます。施設はあくまで手段であって、そこで何をするのか、サービスの中身についての議論もバランスよくしていくべきだと、おっしゃる通りだと思います。

【委員】

今、いろいろとお話をお聞きして、あらゆる要素があり、非常に難しいなと感じています。

正直なところ、この5回で計画が完成するのかな、と思っています。

やり方としては、やはり事務局が出していただく叩き台というか、そこで先ほどもおっしゃっていましたアンケートの結果やワークショップの結果を加味して、「より良い、このような案でいく」という形で議論していかないと、ゼロからここで議論を進めるのはなかなか難しいのではないかと考えています。合わせて、この会議の考え方として、我々はこの図書館が「どうあるべきか」ということだけを考えていけば良いのでしょうか。詳しく言うと、市の財政から考えて「これどうなる」といったことも考えなければならないのかどうか。そこら辺はもう図書館のことだけで「こうあるべき」というのは、私は図書館を充実させるのが良いのはもう分かっていますので。下田からここまで来るのは結構大変なのが分かりますし、先ほどお話にあった日枝山手台も、下田からも直接ここに来る手段は全くありません。そこら辺を考えると本当に大きな問題になっていくのではないかと思います。ですので、これを進めていく中で非常に難しいなという思いでおります。以上です。

【会長】

ありがとうございます。今後の進め方について、現実的なご質問、ご指摘をいただきました。先ほどおっしゃった図書館以外の課題、例えば財政というお話がありました。私個人としては、財源確保のためにどうこうという議論はここでは範疇外かもしれないと思うのですが、湖南省の図書館行政が、類似団体、つまり同じような人口、同じような特性を持つ自治体の中でどのような位置にあるかという点ですね。例えば、よく図書館業界では一般会計に対して図書館費の比率がどれくらいあるかという話があります。例えば浦安市は、非常に利用が多く有名な図書館ですが、大体年間 600 億円程度の一般会計に対して 6 億円くらい、少し 6 億円を切る程度ですが、その管理費が 1%くらいだと、相当良いサービスができると言われています。

この湖南省がどれくらいなのか、あるいは他の自治体と比べてどうか。財政的にどれくらい余裕があるかないかという議論も重要だと思いますが、自治体における図書館行政が、政策的な優位性としてどれくらいあるかということについて、私達はデータをいただき、それについて「もう少し頑張ってもいいのではないかと」いった議論もできるのではないかと。

そういう議論の中で、先ほど財政的に厳しいという話がありましたが、それはもう全国的にそうだと思います。しかし、様々な政策がある中で図書館にどの程度の予算を充てるのかという話は、私は財政という側面からも、私達が計画を作る背景として議論して良いのではないかと考えています。

【委員】

今までの説明や皆様のご意見を聞いた中で、少し感じることをお話させていただきます。

図書館基本計画のビジョンやコンセプトについて、あるべき姿としてご提案いただいています。私が思っているのはですね、もう少し大きな視点で見たときに、先ほどから子どもの問題や若い世代の問題という話は、確かにおっしゃる通りだと思います。

ただそのときに、今図書館が抱えている課題、甲西でも石部でも図書館を利用される方々、あるいは世の中の、図書館という施設を利用する前の段階で、例えば若い世代がどんな情報を求めているのか。図書館に期待することって、元々あるのかな、という少し疑問を持っておりまして、そういう観点からいくと、世の中の情報に対する考え方、あるいは例えばデジタルコンテンツといったものがどういうふうに変わってきていて、それを捉えて若者たち、あるいは若い世代がどういうふう感じて、何を求めているのか。

元々そんな、もう昔の我々が想像できたような活字文化を本当に求めているのかな、というような部分もあって、そういったもっと大きな部分、情報に対する流れとか、あるいは図書館、今行われている図書館運営や図書館活動といったものに対する期待がどうなのかという意識、若い世代の

そのあたりがどう流れていくのかに合わせて、今後のこの図書館のコンセプトなどを決めていくべきではないかと。それがグランドビジョンという形になろうかと思いますが、そういった部分の情報が欲しいなと思います。それが最終的にはここに書いてあるようなアンケートという形でどういうことになるか分かりませんが、先ほど来お話があったように、アンケートではあくまでもアンケートを取った対象の中から回収されることに対する答えであって、元々来ない人の意見はどこにあるのだろう、ということを見ると、その辺のことも含めて、十分に吟味し、かつ、そのコンセプトといいますか、ビジョンというのを、ある程度皆様と「こういう方向であるべきだろう」というようなものを作り上げないと、そのような認識がないままに言葉だけで決めていくのはどうか、皆様の共通認識となるのかなと、少し思った次第です。以上です。

【会長】

少し事務局にお尋ねするのですが、来館者の方に対するアンケート以外に、例えばまちづくり地域意識調査とか、サンプル調査でも構いませんが、「利用していない人に、なぜ図書館を利用していないのか」というような、そういう事例を市民の方にお尋ねするようなことは今までございましたでしょうか。

【事務局】

昨年度、甲西図書館のリニューアル構想の中で、図書館について市民を無作為抽出してアンケート調査を行いまして、その中で「利用していない方についての理由」を少しお伺いしたように記憶しております。今、アンケート結果を手元に持っておりませんので、すぐにお答えはできませんが、今使っていない方が「なぜ使わないのか」というところは、やはり非常に大事だと思いますし、そういう方にこそ、今後新たにきていただきたいという思いもございますので、本日はアンケートがあるということで資料に付けさせていただいております。この内容についても本日議論するのは、少し難しいと考えております。

アンケート資料5-1と5-2の2種類の資料を付けさせていただいております、この5-1につきましては一般アンケートということで、こちらも今年度につきましても、市民の18歳以上の方を無作為抽出し、各中学校区が同数になるような形で今抽出作業を行い、発送を予定しております。

その他にも、ホームページ等で自由にネット回答をしていただくという方法も可能とする予定です。

5-2につきましては、今は中学高校の全学年という形で挙げさせていただいておりますが、この学年が全て適切なのかということもございます。学校様にご協力をいただきまして、学校で使っているタブレットを用いて回答していただけるような形を取りたいと思っております。この内容

につきましてもあくまでも案ということでお示しさせていただいておりますので、この内容についてもまたご意見を図書館の方に直接メールでも結構ですし、お話をお伺いするという形でも結構ですので、お聞かせいただけましたら、次回の会議でその意見を反映したものをまたお示しさせていただきたいと思っております。

【会長】

いただいた進行においては、先ほど冒頭に私が申し上げたように、一応5時半が閉会ということなのですが、今委員からもあったように、「90分ではなかなか厳しい」という状況です。そこで、例えば委員の皆様のご都合や事務局の方での進行上の不都合がなければ、今日突然というわけではありませんが、もし可能であれば、例えば120分といった延長はいかがでしょうか。

【事務局】

皆様のご都合が合うようでしたら延長は可能でございます。

【会長】

ありがとうございます。

早速ですが、今日は次第には4時からの開始時間をお示ししていましたが、皆様、閉会時間の5時半以降に何かご予定が入っているといったことはございますでしょうか。無理に120分延長をお願いするわけではありませんが、やはり議案としては現状の実績報告などもいただかなくてはなりませんし、その中身の議論がまだ十分できていません。先ほどおっしゃってくださったように、「施設のことももちろん重要だけれども、そこで何をするのか」。新しい基本計画のこの図書館は、一体どのような役割を果たし、使命を果たすのか、という点で言いますと、当方からご提案いただいている9ページのグランドビジョン以降の、政策の中身について皆様に自由闊達に議論していただくと、少なくともそれにやはり20分から30分は欲しいと感じます。もし皆様から特にご意見がなければ、最長18時まで。

それまでに「なんとなく今日は言いたいことが言えたかな」ということであれば、早めに終わることもあると思いますが、このことについてはいかがでしょうか。ご異議があればぜひ遠慮なく、例えば「実はこういう提案がある」といったご意見をお願いいたします。

【委員】

私個人的には問題なく、進めていただけたらいいと思います。

【会長】

ありがとうございます。それでは皆様がとにかく今日発言し、思うことをぜひおっしゃっていた

できればと思います。

では、議事進行上、私の方から先ほど申し上げた、この「中身」の部分ですね。

事務局の方からご提案いただいたグランドビジョンにおいて「図書館がどうあるべきか」ということを、政策的な中身の部分で議論していきましょう。施設の議論を排除するわけではありません。

それに関連して施設に関しても、「やはり物理的な空間がこうあるべきだ」といったことも踏まえてご議論いただければと思います。

それで、委員の一人としてまだ私個人的には発言させていただいておりませんので、一点個人的にご質問させていただきたいのですが、本日の資料の３ページ目、「これまでの経緯」についてが一番右端の枠組み「石部図書館について」のところに、「公共施設等総合管理計画」および「個別施設計画」の中で、現状の２館体制の見直しが出てきたとありました。

「これは違うだろう」という議論があるべきだという話は既にありましたが、私が気になったのは、この「公共施設等総合管理計画」というものが、どのような政策的な位置づけのものなのかという点です。

図書館政策が図書館の議論だけで収束するわけではありませんので、自治体政策として、大きな枠組みでの自治体の政策、そういったものの影響を受けることは否定しません。しかし、何となく、「公共施設管理計画があるから、図書館がどうあるべきかという議論が十分でないままに、これが出てきている」と、現在の皆様のご判断も「説明が不十分だ」ということで、先ほどご説明があった通りです。

これは市独自のものなのか、あるいは何か大きな文脈で、例えば国の政策であるとか、そういったものがもしご説明いただけると、湖南省がそういった大きな財源確保も含めて、そういったものに影響を受ける部分があるのかどうか、そういうところを少し聞きたいのですが、いかがでしょうか。

【事務局】

今お話のあった公共施設等総合管理計画でございますが、この３ページの一番左にあります「公共施設の再編」という枠の中のものです。

公共施設は、あくまでも建物を基本としており、平成 28 年 3 月に「今の身の丈に応じた公共施設を将来にわたって維持していくためにはどうしていったらいいのか」という計画でございます。

先ほどお話にもありました「２つあるものは１つで良いのではないか」という考えも、この中に

当然含まれてくるというところで、その公共施設の総合管理計画の中で、それぞれの個別施設ですね。今回対象となる図書館であるとか、他の文化ホールであるとか、体育館であるとか、まちづくりセンターであるとか、そういう公共施設を今後維持していくためにはどうしていったらいいのか、という計画でございます。

それは市の公共施設の計画として、平成 28 年に策定いたしました。その後、他の施設で「集約していこう」とか、「廃止していこう」という施設も当然出てきておりますので、その方向は当然市民の方に説明しながら、予算を確保しながら進めていっているというところでございます。また、毎年計画を見直すということもあります。それは中身を完全に 180 度ひっくり返すような変更ではございませんので、例えばこの時期がずれるとか、多少の計画的な軽微な変更があったといった程度でございます。ですので、それはしっかりと説明した上での計画変更ということになります。この湖南市が、将来にわたって維持管理できる公共施設をどうしていくかという位置づけのもとで、今回の図書館もその中に含まれる施設です。今、石部図書館につきましては、石部文化総合センターという位置づけで、図書館だけでなく文化ホールやまちづくりセンターといった他の施設もありますので、そこはその文化総合センターの建物を今後どう維持していくのかという中で、文化ホール側に図書館があるという、そういった施設もございます。単体での施設もございますし、ですので、今後の公共施設を、先ほどから出ておりますが、将来維持していくためには集約するところも必要であろう、という考えのもとで計画を立てているものでございます。

【会長】

それでは、先ほど皆さんにご案内しました中身の部分ですね。どなたからでも結構です。ご発言いただければと思います。

【委員】

基本方針と基本目標と重点目標の関係について意見を申し上げたいと思います。基本方針を受けて基本目標があるのかなと思います。基本目標の内容は、ほぼ基本方針に入っているのかなと思うからです。でも、重点目標は何か違う方向を示しているような感じがするんですね。一本の筋じゃなくて、基本方針、基本目標とあって、ちょっと違うところに重点目標があるという印象を受けるんです。基本目標をもう少し増やして重点もそこに位置づける。基本目標がある中で、重点はこれですよというふうに整理をする必要があると思います。

【会長】

私も同じようなことを感じていました。「五つの基本目標」と「三つの重点目標」との関連性が、少し議論の視点が違うというか、「施設、資料、職員」というこれら三つの要素は大きなものだと思います。しかし、これが「五つの目標」の一つにどう関連し、どのような考え方で、ど

んな方向に進むのかということが、具体的な目標として結びつかないと感じます。

他にいかがでしょうか。

【委員】

私も基本目標の中で、例えば「ほっとできる居場所となる図書館」とありますね。

重点目標の中で言うと、先ほど少し言いましたが、様々な多様化するニーズにどう応えていくかということが、少し集約されて「ほっとできる居場所」という言葉になっている。これは様々な事例の中で集約されていると思いますが、具体的にそれをどういう形でこの三つの重点政策の中で実現するのかというと、そこが少し非常に乏しいと感じます。それともう一つは、先ほど事務局からもありましたように、「集約する」、いわゆる公共施設の管理計画で「集約していく」「2つあるものは1つ」という考え方を基本にされているようであれば、これは少し違う、図書館としての役割に馴染まないと思います。

だから、その議論は度外視して、つまり「図書館のあり方をどうしていくか」ということを議論していくことになれば、おのずと「1館にしてできるのか」という、先ほど委員が言われたような結論になると思うんですよ。

だから、その議論は、今後我々はどうしていくのか、というのが少し非常に問題提起のように感じます。

【委員】

私も同じような思いを持ちました。

初めから予算ありきであったり、あるいは「一つの施設だけでは難しいよ」とか。もう枠組みが決まってしまうと、本来の図書館ってどうなのかなということを考える機会を奪うような気がするんですよ。そういう意味では、あまり市の事情、財政の事情とか、ハード面の建て替えといった、「ここまでしかできない」といったことを入れ込んでしまうと、自由闊達な発想が出てこないですし、そこに目を向ける方々は、やはりこれだけの利用者の方に目を向けたときに、「どういう図書館であるべきか」という方向で考えていけないといけないと思うので、そのような枠組みを初めから作ってしまうことについては非常に疑念を感じています。以上です。

【委員】

私も、冒頭申し上げたように、まずは図書館がこの湖南省の図書館がどういう図書館であっていいのかということをテーマに意見交換、検討をした方がよいと思います。今日資料としていただいている9ページのところに「暮らしの中に図書館を」という、これまでも大事にしておられ、これ

からも大事にしていきたい考え方を出していただいています。ではそれを実現するためにどういう重点目標を持ち、そしてそこから施策というか取組みが具体的に表れてくるという組み立てが、具体性が高まっていくのでよいと考えます。どんな図書館、どんな機能が欲しいとか、そういうことが少しイメージできるのではないかと思います。

基本目標には大事なことが書いてあるけれども、具体的にこの目標を実現するために取り組むことについては、この会議において委員の意見を集めていただくこと、そしてさまざまな立場の方の声を聴いていただき、市として素案を作成いただくというプロセスで進められるとよいと思います。

最後ですけれども、この資料中のグランドデザインのところに、「図書館は本を読む場所から人と知と文化が交わる場所に進化」とあります。私は、この公共図書館のめざす姿ということについて、湖南省の図書館、特に甲西図書館は県内外の図書館をけん引してこられたリーダー的存在であると感じています。これまでから、この進化させようとしてらっしゃる形を具現化しようとして活動をずっとなさってたと思っています。もし、今がそうではないとすると、なぜそうじゃないのかっていうことを振り返ることも必要かと思います。現場からも生の声を出していただけると良いのかなと思い

ました。以上です。

【委員】

グランドビジョンで示されている「本を単に読む場所、静かに読む場所」というのが過去の一般的なイメージでした。しかし、世の中はどんどん変わっていきます。特に今回は若い世代を中心とすると。それからもう一つ、私としては石部の話ではなく、今足りないものを補完するようなものがあるとすれば、若い世代が利用でき、あるいは「ここでなら話してもいい」、あるいは建物の中であっても「少し小声で話す」、あるいは「子どもが多少騒いでも大丈夫」といった様々な場所が、今一番望まれているのではないのでしょうか。市役所には様々な施設がありますが、図書館に行けば市内の様々な情報が集まります。それから、子どもが多少騒いでも、みんな温かく見守って注意しないような場所。さらに、今読んできて、ものすごく感銘を受けた本について、知り合いの方に「こんな本があったんだよ」と話せるようなスペースが、やはり時代の流れとして望まれています。要は今の甲西のスペースには物理的に少し無理があるからこそ、そのような場所が、別にそれはもうどこでやってもいいんですよ、というのが、やはり時代に即したものとして必要とされているのではないのでしょうか。

それから、また変なことを言うかもしれませんが、若い人たちが例えば読書などがなかったら、AIに相談して答えを信じ込んでしまう。

それでもう、小さい頃から本を読んでいたりにすることには、そのようなことは多分ないと思うんですね、リテラシーとして。だから、やはり時代の流れから汲み取り、甲西の時代から様々な蔵書があり、イベントもいろいろ、音楽ライブラリなどにみんなが集まっていたというのは、あの時代で良かった。ものすごく良いものとして先進的だったと思いますが、今は地味だけれども人が集える、ここに書かれている「本を読む場所から人と知と文化が交わる場所」という言葉が、まさにものすごく良い言葉を選んでいていると思うんです。それを、そんな現実に関のところに持ち込むとしたら、先ほど言ったような「少し小声で話しても邪魔にならないようなスペース」があれば、人が集まってくると思います。それから、市役所の様々な回覧板などがあるよりも、図書館には様々な情報があります。他の市の図書館には結構行きましたが、会長もご存知の愛知川図書館などは、ホールに入るとまずピアノが置いてあって、それから各市役所の部署の人が健康に関する情報などのリーフレットがそこに置いてある。まさに人と知と文化が交わる場というのが、そういう望ましいものを実現するには、やはり少しスペース的に別の形のものがあっても良いのではないかと、というのが、先ほど私が発言した趣旨であって、石部を残すという話ではなく、違う感覚の、まさに「人と知と文化が交わる場」が別にあっても、それが若い世代の人に役に立つのであれば、税金を取り戻せるではないですか。高校を卒業したらもう他市に行かなくても、そこに住民票を置いてくれたら、将来きちんと税金を払ってもらえるわけですね。住民、それがやはりあるべきものだというのが、先ほど発言した趣旨でございます。

【委員】

先ほどおっしゃっていましたが、基本目標と重点目標は一応書いているんですけど、具体的にどういうふうな方向にしていきたいというのを我々に教えていただいて、これからの議論の基になるような形で聞かせていただければありがたいなと思います。

【委員】

すいません。負担に思われるようであれば無理をする必要はないと思うんですけれども、事務局が全部作られるというよりも、せっかくこのメンバーが集められたので、我々が作って事務局に出していこうということがあってもいいのかなと思います。

【事務局】

ありがとうございます。先ほどからこの11ページの基本目標と重点目標、ここの関係性が非常に分かりにくいというご意見を何人の方からいただいております。

おっしゃっていただきましたように、この基本方針をさらに細分化したものが基本目標ということにはさせていただいております。この目標を達成するために、この重点目標を三つの切り口から、というイメージで作ってはいるのですが、計画を立てていく中で、下に行けば行くほどより具

体化していく方が分かりやすいというご意見、ごもっともだと思いますので、ここの重点目標の部分については、もう少し考え方を整理させていただきたいと思います。

あと、今ご提案いただきました、「皆様からご意見をいただいて、それを集約してというか形を整えて、まとめさせていただく」というのは非常にありがたいご提案だと思います。事務局の方ですと、どうしても思いが偏ってしまったりだとか、斬新な考えが出なかったりするところがございしますので、皆様から、「こういったことを入れていったらどうか」といったご意見をいただくと非常にありがたいです。

【会長】

関連で今のところで、基本方針が三つある。その中で五つの基本目標ということですが、例えば「地域の文化の情報拠点」と、五つの基本目標の一つである「情報と文化の拠点となる図書館」とかですね。「心の癒しや育みの居場所」というところと、一つの基本目標の「ほっとできる居場所となる図書館」など、これは少し抽象度が非常に近似しているというか、もう少し具体的にできないか、と感じました。

ですので、例えば基本方針に対して、五つの「基本指針」とでも言うのでしょうか。

基本方針の名前は「指針」というふうにもう少し、何とというか、細分化されたイメージなのかなとちょっと思ったりしました。その五つの柱を実現するための目標ですよ。それが、施設、資料、職員のそれぞれについて2枚にわたって書かれていると思いますが、五つの基本目標をもう少し具体的にしたものから、次に事業ベースとでも言うのでしょうか。

それを種別するときに、例えば施設の、資料の、職員に関わるもの、というような主題分けやカテゴリー分けはできると思いますが、具体的にしていけばどうかというのは私も感じました。

それから、委員からご提案のあった、「我々委員も具体的な意見を出す」というようなところで、例えばですが、もうこの重点目標、具体的にどういうことを目標として掲げてやるのか、というところが出しやすいのか、あるいはもう少し上の層で、五つの基本目標となるようなものを、もう少し異なる皆様なりのお考えというか、そういうもので見ていくのか。今の例えばの話ですが、もし私達がやるとすると、どのような関わり方ができるかということについて、もしご意見があれば聞きたいのですが、いかがでしょうか。すみません、

【委員】

すいません、その前提としてね、こだわるわけじゃないんですけど、重点目標と基本方針の講義中に生かしていくってことでいいですと、2館を1館にするという、このことの議論について

はもう具体的に1館にした状態でやるということの議論というのは、なじまないと私も言いましたが、そこはもう度外視して、石部にどういう機能が要望されているのか、充実した図書館、図書室、図書館機能を創っていくという方向で我々が提案することでよいでしょうか。

【事務局】

はい。どうしてもサービスが先か、施設が先か、という話ではないですが、切っても切り離せないものだとは思っております。ご提案いただいております通り、図書館基本計画は、図書館サービスをどうしていくかということをメインとして計画を立てていくものだ、と事務局も考えておりまして、その後に施設がどうなるかという話がどうしても付いて回るとは思います。ただ、そこに「こういう建物がないと、このサービスはできません」ではなくて、先ほど少しお話しました移動図書館で可能かどうか、まちづくりセンターに図書室があればどうか、といったことも含めて、可能であればそれも解決の一つになると思いますので、サービスがどうあるべきかというところをまずご議論いただけたらなとは思っております。

【会長】

今の事務局のお答えについて何かご意見ありますでしょうか？

【委員】

先ほどアウトリーチという言葉を使わせてもらったんですけども、その建物がどこにあるとしても、そこに自分で行けない方は必ずいるので、そういった方にどのように届けるのかというところがサービスの部分だと思うんですね。

別の会議にはなりますが、過去に県で行った首長会議で湖南省の市長がおっしゃったことを思い出しました。

子どもたちは1人1台端末を持っています。小学生・中学生、高校生も今持っています。

市長がおっしゃったのは、子どもたちが借りたい本をタブレットなどで表明したときに、県内でどこにいても本が集められるシステムを作って欲しいということでした。

今、私達は、湖南省の中でそれをどう実現することができるでしょうか。

マツゾウくんの行き先の検討は必要ですし、電子図書館については湖南省のすごい強みだと思いますので、その活用本来にこれからどんどん小学校でも広げていきたいと思っています。市内で流通システムというものがございまして、そこをもうちょっと何か進化した形で届ける。届けるためのサービスをどう進化させるかというところの議論とかも含めて、どうアウトリーチで届けるかというあたりの工夫については十分話し合って、充実させていく部分なのかなというふうに思

います。

【会長】

はい、ありがとうございました。

お時間のほうが、あと 15 分少々となりました。

まだまだご意見があるということであれば、この現状報告や実績報告は、書面を見れば分かりますが、そこに書かれている事実をどのように捉えているかということについてのご説明が必要だと思います。

委員の皆様にお諮りします。

この議案について、一定時間をやはり確保した方が良いか。これは自分たちで読んでも分からないことがあるのか、次回聞くので、もう少し具体的な議論を進めた方が良いか。そのあたりについてはいかがでしょうか。残り 15 分の使い方についてご意見をお聞きできればと思います。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。そうしましたら、一つ私から提案です。やはりこの数字もすごく大事です。その数字が持っている意味について、委員の皆さんから「これはもっとこうあるべきではないか」というご意見もあると思いますので、計画の基本に関わることなので、一定このことについてご説明をいただくということと、もう一点、最初からご提案があった、「私達に何かこう、手足を動かそう」というときに、例えばですが、メーリングリストなどをもし立ち上げていただければ、皆様がメールをお持ちだということを前提としますが、それがメーリングリストでも、あるいは BCC で同報メールでも議論できれば、会議が 5 回しか機会がないということですので、何かそういう意見を出し合い、とにかく出し合うというような、そういうプラットフォームができるといいなと思いましたので、そのあたりも事務局の方でご検討いただければと思います。それでは少し短い時間ですが、2 番の現状報告、実績報告についてご説明をいただいてもよろしいでしょうか。

【事務局】

資料 3 により説明

【会長】

今のご説明で何かご質問はございますでしょうか。少し私の方から事務局の皆様にお聞きしたいのですが、3 ページに貸し出し冊数がありまして、貸し出し冊数の指標に「貸し出し密度」というものがあります。1 年間で貸し出した冊数を当該年度の人口で割るということで、先ほどどこかで

人口のことを教えていただきました。今ざっと計算すると 5.49 冊ということで、今日本の平均が 4.8 くらいですので、日本の平均よりも高いということが分かりました。

一方で、「実利用率」というご説明がありました。これはここ数年というか、まだ 10 年経たないくらいの間に注目されている指標であり、貸し出し密度は、恐らくヘビーユーザーがたくさん借りてくれると数字が上がる、本を主体とした指標ですが、こちらの実利用率は「利用者市民」ということで、12.5%というのがどれくらいの位置なのかということについては、はっきりした研究はないのですが、例えば 2014 年の少し古い数字なので今どうかよく分かりませんが、東近江市だと 24.4%なんですね。ですから、これはサービスポイントが充実しているからなのか、あるいは資料の内容なのか、原因は分かりません。なので、この 12.5%という数字を図書館の皆様がどう評価なさっているのかということと、私達委員としても、基本計画を作るときに、「一人でも多くの人が貸し出しサービスを利用する（貸し出しだけが図書館のサービスではありませんが）」ことは、やはり多ければそれはそれで様々な指標を使っていることになるので、そういうことも一つ何か今後の参考になるのかなと思いました。はい。ということで、様々なデータについて「どう評価するか」という観点は様々なわけですが、はい、これからご説明について何か他になれば「ない」ということにしてしまっている状況です。

もしあれば伺いたいのですが、あと今後のスケジュール、前回のスケジュールでは次回の日程なども含めてご案内するとのことと、先ほどご提案のあった「皆様で何か作業をする」という具体的な方法について、少し事務局の方からご提案いただけますでしょうか。

何か「こんな方法があるんじゃないですか」とかですね。やるかやらないかは今おっしゃったように、皆様にご無理のない範囲で配慮するということでよろしいのかなと思うのですが。

こういうことをすることについては、まだそう言われていないかもしれませんが、皆様がよろしければというようなことになります。

【事務局】

皆様で何かやれる範囲で何か案を出す、というような今の意見の出し方というところなのですが、少し私もそういうことがあまり得意ではないので、そのメーリングリストを作るのか、そういう会議室のようなものが作れるのかどうかなど、詳しい職員との相談はさせてもらいたいと思います。もしメールでということになりますと、皆様のアドレスを共有させていただいたりということが必要になってくる場合もありますので、そのあたりは少し今日ご確認させていただければと思います。

【会長】

今、事務局の方にも情報整理していただきましたが、これについてはいかがでしょうか。特にご異議なしということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。では、皆様から最後にご確認いただいたということで、実際にどの程度関与できるかというご事情があると思いますので、それはもう皆様のご事情が許す範囲ということで、

可能な範囲ということで、そのようにできれば、本当に策定委員会としても良いことだと思いますので、よろしくお願いいたします。

今おっしゃっていただいたように、少しお手数をおかけしますが、何か良い方法をご提案いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

それでは本日の議事で、私の方の進行はここまでとさせていただきます。

【委員】

第2回の日程をご提案いただくと思うんですけども、市民アンケート中高生アンケートについても意見を言いたいんですね。今日はもう時間ないから事務局に送りたいと思っていますが、それを第2回で論議してもらえるのか。それによって第2回の日程やアンケートに対する意見はいつまでというのが関わってくると思うんです。ワークショップについても第2回で検討するのか事務局におまかせなのか、そのへんも教えいただきたいし、ワークショップをするなら中高生を相手に進行ができる人がいないと難しいから、これから8月にワークショップをしますと言うのは遅いんじゃないかな。第2回と関わってくるので、お考えがあるかどうか教えてください。

【事務局】

ありがとうございます。ワークショップを、一般や中高生を対象にするという点で、具体的などころまでは正直考えを持ち合わせておりませんでした。開催する意向はございましたが。あと、中高生と一般向けのアンケートは実施するというのを先ほどご説明させていただきましたが、もし中高生に向けてワークショップを開催することになりますと、高校生の場合ですと、夏休みになると高校生がこちらの方にあまり来ないというような事情があったり、その開催時期が、学校の行事などとすり合わせた上でないと、日程の方がなかなか決めづらいかなというところもありますので、そうなりますと、夏休みが明けてから開催するということになりますと、第2回の会議を8月に開催するとなりますと、そこで「こういった形で開催したい」というようなお話をさせていただくような流れになるのかなと思います。

【委員】

例えば、高校生が進行して小中学生の意見を吸い上げるというやり方もできると思うんですよ。

ただ、十分打ち合わせをしなければいけません。でもそうやって子どもたちを鍛えていくとか、そういう経験をさせて「図書館は自分らの身近な問題だから、自分たちが考えていかないといけない」という意識を持たせることが大事だと思います。第2回策定委員会で改めて論議しては遅いので、メールでも意見がやり取りできないか、それも検討していただけるとありがたいです。

【事務局】

ありがとうございます。いろいろ考えていただくことが多くて申し訳ないなと思うところはあるんですけどもそこもご意見いただけたらと思います。

【会長】

はい、ありがとうございました。私の進行があまりうまくなくて、大変重要なご意見いただきましてありがとうございました。

それでは私の方で進行はここまでとしまして事務局の方にお返しいたします。

3. 閉 会

[教育部長あいさつ]